

戦国末～明治前期畿内村落の総合的地域研究

平成 15 年度～17 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) (1)

研究成果報告書 (課題番号 15320082)

平成 18 年 3 月

研究代表者 渡辺 尚志

一橋大学大学院社会学研究科教授

目次

第二部 小谷家文書の研究

I 研究の概要

研究種目・課題番号・研究課題／研究経費／研究組織／研究発表

和泉国大鳥郡豊田村の村落構造と上神谷地域

―「福徳寺座中記録」と「中村結鎮御頭次第」を素材に―
長谷川裕子 (131)

上神谷年貢関係史料の一考察―山年貢と「名寄帳」を事例に―

神谷 智 (167)

II 研究報告

第一部 岡田家文書の研究

十八世紀における岡田家の経営について

小酒井大悟 (5)

享和と弘化年間における岡田家の地主経営

小田 真裕 (25)

豪農金融の展開と地域

―享和と天保期の岡田家の金融活動を中心に―

福澤 徹三 (57)

幕末岡田家の大井村小作地支配についての基礎的研究

天野 彩 (71)

幕末期岡田家の地主小作関係と村落

小松 賢司 (95)

I 研究の概容

はしがき

渡辺 尚志

本研究は、「戦国末く明治前期畿内村落の総合的地域研究」という課題名で、二〇〇三～二〇〇五年度の文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））の交付を受けて行なわれた。「総合的」の語には、対象地域のありようを総合的に明らかにするとともに、各地域の比較を通して全国的な視野での総合化を図るといふ、二重の意図を込めている。

本研究は、具体的には、近世畿内農村の構造と変容を、二つの大きな文書群の分析によって明らかにしようとするものであった。対象としたのは、和泉国大鳥郡上神谷豊田村小谷家文書と、河内国丹南郡岡村岡田家文書である。現在、前者は国文学研究資料館と関西大学に、後者は一橋大学付属図書館に所蔵されており、両者とも数千点から一万点規模の文書群である。さらに、畿内村落の特質を浮き彫りにするためには他地域との比較が重要であると考へ、信濃国松代藩領の村々の分析も合わせて進めた。すなわち、小谷家文書・岡田家文書・松代藩領の諸家文書（真田家文書を核とする）が対象史料の三本柱である。

研究組織は、渡辺が研究代表者となり、大塚英二・神谷智・志村洋・山崎圭各氏を研究分担者をお願いし、さらに何人かの研究協力者にも加わっていた。

小谷家文書は、戦国期から近代にいたる史料を含んでおり、近世を通観し、さらにその前後の時代にまで分析の手を伸ばしうる貴重な文書群である。とりわけ、戦国期から近世初期の文書を多く残し

ている点は重要である。そこで、本研究では、戦国期から近世初期の分析に相対的な比重を置きつつも、そこから近世後期までを通して分析することによって、近世村落の形成と展開の具体相を描き出すことを試みた。

岡田家文書は、過去に、津田秀夫氏がそこから「国訴」の語を発見し、佐々木潤之介氏がその分析から氏の豪農論を成型したという、「由緒」ある文書群である。年代的には近世中期から明治期の史料がほとんどであり、近世・近代の豪農経営を詳細に分析することが可能である。岡田家のある岡村の周辺は棉作が発達しており、当時全国的にみても農業生産力の面での最先進地帯であった。こうした特色ある地域における豪農経営の全面的分析によって、日本の近代化過程における村と地域の具体的なありようを解明したいと考えた。二〇〇三年に、岡田家から多数の経営帳簿を含む大量の新出史料が発見されたため、それらの整理・目録作成と分析作業を並行して進めてきた。その際、同家の経営の変遷を詳細に跡づけるとともに、その変遷が小前百姓や村の動向とどう関連し、それらにどのように規定されていたのか、という問題関心から検討を行なった。

松代藩領の分析は、現在のところもつとも進んでおり、渡辺編『藩地域の構造と変容―信濃国松代藩地域の研究―』（岩田書院、二〇〇五年七月刊）として成果を刊行することができた。その構成と執筆者を次に掲げておこう。

序章（渡辺尚志）

第一編 訴訟にみる藩地域の特質

第一章 大名家文書の中の「村方」文書（渡辺尚志）

第二章 村方騒動からみた領主と百姓（渡辺尚志）

第三章 近世後期における領主支配と裁判

―下真嶋村寅吉不法田畑譲渡一件を事例に―（野尻泰弘）

第四章 近世後期松代藩の村役人と処罰

―福嶋村沖八差紙不出頭問題をてがかりに―(重田麻紀)

第五章 文化・文政期の松代藩と代官所役人の関係(福澤徹三)

第六章 松代藩領下の役代と地主・村落(小酒井大悟)

第七章 松代藩領の盲人

―弘化三年東寺尾村館屋平助女子一件―(山田耕太)

第二編 藩地域の多彩な展開

第八章 元禄・享保期松代藩の家中意識

―落合保考を中心に―(綱川歩美)

第九章 宝暦期松代藩における学問奨励

―菊池南陽と小松成章を中心に―(小関悠一郎)

第十章 大名家を継ぐ

―松代藩の家中騒動と養子相続―(佐藤宏之)

松代藩関係文献目録(小関悠一郎)

同書は、近年さかんな藩研究の成果に学びつつ、「藩地域」の話を表題に掲げた。同書では、核心的なテーマとして、訴訟をめぐる藩当局と領民との関係性の問題を設定し、武士―百姓関係という近世身分制の骨格を形成する問題を、訴訟の場への着目という新たな視角から再検討しようと試みた。そして、それを軸に、家臣団の内部構造、身分論・集団論、藩における学問・思想状況などの重要問題の分析を加えることによって、豊かな肉付けを図った。

本書の刊行作業を通じて、松代藩領の研究は、畿内との比較の視座を獲得するということにとどまらず、独自の総合的地域研究としてさらに発展させる必要があることを痛感した。今後、松代藩領をフィールドに、新たな中核的テーマをいくつか設定しつつ、研究対象の幅をいっそう広げていきたい。

ほかに今後は、戦国期から近世後期にいたる畿内村落の特質と変容過程を実証的・理論的に明確なかたちで提示することを最大の課題としつつ、①近世史という枠に閉じこもらず、中世・近世移行期、近世・近代移行期などの移行期研究に積極的に取り組むこと、②村落史という枠に縛られず、都市・流通・藩政・思想・文化などの多様な問題群を「藩地域」をキーワードに総合化していくこと、③東北・四国など各地域に、また山村・漁村にも、さらに比較のフィールドを増やしていくこと、なども課題として、共同研究を継続的に発展させていきたい。

1 研究種目・課題番号・研究課題

基盤研究(B)(E) 一五三二〇〇八二

戦国末〜明治前期畿内村落の総合的地域研究

2 研究経費

	直接経費	間接経費	合計
平成十五年度	三、〇〇〇千円	〇円	三、〇〇〇千円
平成十六年度	二、四〇〇千円	〇円	二、四〇〇千円
平成十七年度	五〇〇千円	〇円	五〇〇千円

3 研究組織

研究代表者	研究分担者
渡辺 尚志	大塚 英二
神谷 智	志村 洋
山崎 圭	
一橋大学大学院社会学研究科教授	愛知大学文学部助教授
愛知県立大学文学部教授	関西学院大学文学部教授
愛知大学文学部助教授	中央大学文学部専任講師

研究協力者

天野 彩 拓殖大学第一高等学校常勤講師

小田 真裕 一橋大学大学院社会学研究科

小酒井大悟 一橋大学大学院社会学研究科

小関悠一郎 一橋大学大学院社会学研究科

小松 賢司 学習院大学大学院文学研究科

佐藤 宏之 日本学術振興会特別研究員

重田 麻紀 慶応義塾大学大学院文学研究科

網川 歩美 一橋大学大学院社会学研究科

野尻 泰弘 品川区立品川歴史館社会教育指導員

長谷川裕子 日本学術振興会特別研究員

福澤 徹三 一橋大学大学院社会学研究科

舟橋 明宏 一橋大学非常勤講師

山田 耕太 一橋大学大学院社会学研究科修士
課程修了

(二〇〇四年)

渡辺 尚志 『中世・近世土地所有史の再構築』
(共編著、青木書店、二〇〇四年)

『村の世界』

『日本史講座 第五卷 近世の形成』歴史学研究会・日本史研究会編、東京大学出版会、二〇〇四年)

大塚 英二 『近世後期駿遠州地方における地域金融』
(『藤枝市史研究』五号、二〇〇四年)

神谷 智 『草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治』
(名古屋大学大学史資料室、二〇〇四年)

志村 洋 『荒廃農村地域の在方町と在方商人に関する基礎的
討』

山崎 圭 『二宮町史研究』二号、二〇〇四年)

渡辺 尚志 『近世幕領地域社会の研究』
(校倉書房、二〇〇四年)

4 研究発表

(二〇〇五年以降)

渡辺 尚志 『藩地域の構造と変容』
(編著、岩田書院、二〇〇五年)

大塚 英二 『近世後期の五人組と身分集団』
(『愛知県立大学文学部論集』五三号、二〇〇五年)

神谷 智 『投資と投機の新田経営』
―矢作川河口部の新田を事例として―
(『愛知県史研究』九号、二〇〇五年)

志村 洋 『松本藩組手代制に関する覚書』
(『関西学院史学』三三二号、二〇〇五年)

山崎 圭 『文久期幕府経済政策と国益手法掛』
(『中央大学文学部紀要・史学科』五一号、二〇〇六年三月刊行予定)

(二〇〇三年)

渡辺 尚志 『浅間山大噴火』
(吉川弘文館、二〇〇三年)

大塚 英二 『尾張藩山同心の日記から見た藩主家族の松茸狩り』
(『愛知県立大学文学論集』五一号、二〇〇三年)

神谷 智 『草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治』
(名古屋大学大学史資料室、二〇〇三年)

志村 洋 『地域社会の変容―幕末の『強情者』と寺領社会―』

(藤田寛編『日本の時代史十七 近代の胎動』吉川
弘文館、二〇〇三年)

「近世前期の大庄屋制と地域社会」

『人民の歴史学』一五七号、二〇〇三年)

山崎 圭

「アーカイブズの編成と記述

—近世文書史料を中心に—」

(国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』
下巻、柏書房、二〇〇三年)

(付記)

以下の本文では、出典史料表記を次のように統一して略記した。

・「小谷家文書」は「小」とし、『史料館所蔵史料目録 第三六集』
の整理番号を記す。

・「岡田家文書」は「岡」とする。本文書については三種類の目録が
作成されている。そこで、佐々木潤之介氏が中心となって作成さ
れた目録をA(「岡」A)、菅野則子氏が中心となって作成された
目録をB(「岡」B)、渡辺尚志ゼミで作成された目録をC(「岡」
C)とし、整理番号を記す。